

《担当者名》 榊原健一 kis@hoku-iryo-u.ac.jp 鈴木瑞恵

【概要】

4年次の「卒業研究」における研究を遂行するために必要な基礎知識として、研究のデザイン方法について学ぶ。具体的には、言語聴覚学および医学一般におけるデータの収集方法やデータ処理（統計）および結果の解釈の方法について学ぶ。将来、大学院進学を考えている学生に選択することを勧める。

【学修目標】

<一般目標>

研究をするための基礎的な知識、スキルを身につける。

<行動目標>

1. 研究の科学的方法の意味を理解する。
2. 研究のデザインの立案、データ処理の方法を身につける。
3. 検査における統計的な意味を理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション、研究の方法	科目の学修目標、講義日程、使用する学修管理システム、授業の進め方、評価の方法について理解する。研究倫理（利益相反、倫理審査）科学的方法および客観性とは何か、研究に求められる社会的意義について学ぶ。	榊原健一 鈴木瑞恵
2 3	研究デザイン(1,2)	・EBMと研究デザインについて学ぶ（メタアナリシス、ランダム化比較試験、システマティックレビュー、コホート研究） ・記述的研究、分析的研究について学ぶ。	鈴木瑞恵
4 5 6	研究デザイン（3,4,5）	・横断的、縦断的観察研究の手法を学ぶ。 ・介入研究の手法を学ぶ。 ・論文を参照して具体的な研究手法を考察する。	鈴木瑞恵
7 8	研究とデータ処理（1,2）	実験デザインにおける変数、サンプリングの方法について学ぶ。様々なバイアスと、代表的な抽出方法について学ぶ。	榊原健一
9 10	研究とデータ処理（3,4）	統計処理用のツールを計算機にインストールし、実際のデータを用いて、データの要約の方法、グラフの作り方を学ぶ。	榊原健一
11 12	研究とデータ処理（5,6）	統計におけるパラメトリックの手法と、ノンパラメトリックな手法、数学的モデル、モデルの適合、統計的検定の過誤、信頼区間、感度、特異度、p値について学ぶ。	榊原健一
13 14	研究とデータ処理（7,8）	2群の比較、多変量解析、オッズ比、生存曲線について具体的なデータを用いて統計的検定を学ぶ。	榊原健一
15	研究のまとめ方	サーベイの方法（検索の方法ではなく学問的な側面）、執筆目的の設定、事務仕事、論文誌（投稿、査読、再投稿、採録）、学会、国際会議、IFなどアカデミアの仕組み	榊原健一

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

演習課題，レポートの提出（100 %）

【教科書】

対馬栄輝 他 編 「リハビリテーション統計学」 中山書店 2014年

【参考書】

N. Schiavetti and D. E. Mets, Evaluating Research in Communicative Disorders (6th Edition), Allyn & Bacon, 2010

【備考】

1. 授業を支援するLMSとしてGoogle Classroomを用いる。Google Classroomでは以下のことをおこなう。

- ・授業資料の配信
- ・授業各回の理解度チェックおよび質問の受付け
- ・質問に対する回答
- ・学生相互の意見交換
- ・オンデマンド教材の提示

2. オンラインでの同時双方向型の授業を実施する場合はzoomを用いる。

【学修の準備】

配付資料を精読し、講義で出された課題を処理すること。毎回40分以上の予習・復習が必要となる。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP5）国際的および地域的視野を有するリハビリテーションの専門家として活躍できる能力を身につけている。

（DP6）社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および言語聴覚療法科学の開発を実践できる能力を身につけている。

【実務経験】

鈴木瑞恵（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

鈴木瑞恵：特定研究員での実務経験を活かし、言語聴覚士領域での研究法の理論と実践を講義する。